5. 直接鋳造薄板材と材料特性
座長　武智　弘(新日鉄)

懇親会

懇親会は11月2日午後6時より千里阪急ホテルで日本金属学会と合同で開催された．大庭半次新日本製鉄(株)・堺製鉄所副所長の司会により加藤実行委員長，小松金属学会会長，八木本会会長，熊谷大阪大学総長挨拶の後，高村仁一京都大学名誉教授の乾杯で始められた．参加者350名ほどで秋の夜に懇談がなされた．最後に副実行委員長　堀阪大教授の閉会の辞により散会した．

ジュニアパーティー

11月3日午後5時40分より阪大学生食堂にて東北大学葛西君の乾杯の音頭で開催され，若手技術者・研究者間の懇談が行われた．参加者は180名であつた．

欠講

今大会において次の講演は欠講された．

1. No. 184　連鋳鋳片のミクロシティ分布と凝固プロフィールの関係　唐山工学院　宋　実 他
2. No. 270　水平連鋳凝固シェル熱応力モデルに関する研究　唐山工学院　閻　小　林 他
3. No. 271　水平連鋳の溶鋼流動に及ぼす間歇引抜きの影響　唐山工学院　王　日　紅 他
4. No. 380　ウィスカー強化セラミックスの機械的性質　新　日　鉄　木下　俊哉 他
5. No. 754　高炭素鋼線熱水焼入れの新しいプロセスに関する開発　中国湘潭大学　譚　玉　華
6. No. 755　熱水焼入れ鋼線の顕微鏡組織および機械的性質におよぼす低加熱温度の影響　中国湘潭大学　譚　玉　華 他

コラム

論文賞考

「論文賞」……何と響きの良いことばなのでしようか！　読者の多くは，これを一つの目標にして，論文を書かれていると思います．もちろん，筆者もその一人です．数年前，カナダに滞在中，国際電話で自分に賞が与えられると知らされたとき，本当にありがたく，また努力が報われた思いがしました．

筆者の本誌における専門分野は，精錬・製鋼ですが，この領域の論文賞は，本誌俵論文賞，金属学会誌論文賞また Metallurgical Transactions 等の Chipman Award などがあります．いずれもたいへん権威があるものです．

長年の功績の積分値を評価して与えられる，「功績賞」と異なり，α＋編集委員の推薦を受け，選考委員会における投票？で決するこれらの賞は，これまでの活動歴によらない，その論文のみを評価の対象にする，時間微分的な評価の結果であるといえます．

さて，鉄鋼協会の会員名簿に掲載されている表彰規程をみると，【第6条，俵論文賞は，本会会誌「鉄と鋼」および“Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan”に掲載された前1か年の論文を審査し，学術上，技術上最も有益な論文を寄稿した会員に授与する．】とあります．

この規程によれば，1年間に推薦を受けなければ，選考の対象にもなりません．自薦は認められません．推薦権をもつ誰かに，認められなくてはならないのです．ちなみに，前出の Chipman Award は，過去2年間に出版された論文は，推薦の対象になります．

過去50年以上の歴史の中におそらく，受賞に値する論文であるにもかかわらず，推薦者の目に触れず，選考の対象にすらならなかつたこと，運悪く同じ分野に優れた論文が複数あり，その機会を失つたことが少なからずあるのではないでしようか．

また，受賞するのは会員であつて，論文ではありません．これも，論文賞の趣旨からすると不思議なことです．“Trans. ISIJ”では非会員からの投稿も認めているのですから，改めるべき点でしよう．AIME が多数の日本人非会員を，表彰していることを，お忘れなく．

さらに賞の推薦規程を読み進めると，【第18条の1，受賞候補者の推薦者は本会理事，前会長，評議員，支部長，常務委員および維持会員とする．(ここまでが前文に言う α である．筆者注)なお本会編集委員は俵論文賞受賞候補者を推薦することができる．(後略)】

論文誌の品質を決定する編集委員は，維持会員以下で，おまけのような取扱いです．論文賞の推薦規程としては，どうも釈然としません．

以上の感想をもとに，より公正な，洩れのない表彰を行うために，三つの提案をします．①前1か年……を，2年間に延長する．そして，自薦を認める．②非会員にも受賞を認める．③論文賞の推薦に「我が社の……」ということはないでしようが，李下に冠をたださず．この際，法人である維持会員は，論文賞推薦者からは除外すべきでしよう．もとより法人は人間ではないので，論文を読みません．

この欄で，編集委員長を含めた，会員の皆様の御意見をいただきたいと考えます．

(東京大学生産技術研究所　前田正史)